

SHIRAKOBATO

# しらこぼと



SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

1990. 10

WILD BIRD



NO. 77

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 都市鳥は今

都市鳥研究会事務局長 川内 博

「都市鳥を調べる」という題で、ヒヨドリの分布や生態の変化を追いながら、首都圏を中心とした市街地に鳥の姿が増えた原因を紹介したのは4年前のこと（『しらこぼと』No. 27）。その要旨は、東京を中心とした首都圏一帯の環境やそこに住む人の鳥への対応が変わったので、新しいタイプの鳥類群集（都市鳥）が生まれてきたのではないかとのことでした。

その後も都市に生きる鳥たちの生態を追っていて、前回の見方をますます強くしています。身近かなところで生きている「都市鳥」に興味を持ってもらい、バードウォッチングの手助けになれば幸いです。

## 猛禽型ヒヨドリの出現

東京支部報「ユリカモメ」9月号にショッキングなレポートが2つ載っていた。「猛禽型ヒヨドリの行動観察」という題で、ヒヨドリによってアオジやコゲラ、キジバトが殺され、ツバメのヒナが襲われたという報告である。かい摘んで内容を紹介しますと、あるヒヨ



ヒヨドリ

ドリが給餌台を中心とした10mくらいの範囲で、他のヒヨドリやツグミ、アオジ、ルリビタキ、シジュウカラ、コゲラ、キジバトなどを激しく攻撃して追いたてる行動を示し、アオジ・コゲラは近くで死体を発見し、キジバトは窓ガラスに激突して死亡したということで、報告者はアオジ・コゲラについてもそれまでの状況からヒヨドリに突き殺されたと思われるとしている。もうひとつは、電線に止まっていたツバメの巣立ちヒナに、ヒヨドリが突然襲いかかったため、ヒナは斜め下方に転げ落ちるように見えなくなったという報告である。

ヒヨドリが他の鳥を攻撃するという行動が顕著になったのは1970年代後半からである。とくに目立ち出したのは80年代に入ってからで、当時筆者自身も庭の給餌台に来るキジバトに対し胸毛が飛び散るほど攻撃した現場を目撃し、驚いてその行動を調べてみたところ、同様の観察がいくつもあることがわかった。例えば、前述のツバメと同じような状況で、スズメをまるで餌を捕らえるように嘴で挟んで飛び去ったとか、藪の中に止まっていたスズメの若鳥に襲いかかり、スズメの羽毛がワッと飛び散る光景を2度見たとか、飛んでいるスズメを空中で襲ったとか、突然スズメの悲鳴がし、見上げると頭上から野球のボール大の塊が落ちてきて、地面に落ちると同時にその塊からスズメとヒヨドリが飛び出てきたなどという生々しい例で、日頃のヒヨドリでは考えられないような行動である。

その後も注意して観察していると、スズメの餌を脅して横取ったり、地上で採餌しているドバトの群の上を威嚇するように飛び回ったりするのを目撃した。また九州では、給餌台でメジロの脚を折ったという観察もある。

ヒヨドリはご存じのように漿果や花蜜を好み、鳴き声がうるさいだけで、比較のおとなしい性質という印象がある。そんな鳥がなぜ

肉食化とも思えるような凶暴な行為をするようになったのか。残念ながら今のところ何とも説明がつけられない。ただヒヨドリが給餌台に来る他の鳥を追い払ったり、攻撃する行為は意外と前から観察されていて、「スズメの食堂」の著書で知られている小熊捍氏が1964年に『ヒヨドリはギャングだ』という随筆を書かれている。また街の中での子育てを観察していると、意外にヤモリなどの小動物を運んでくることが多く、そんなところに我々が日頃見ている面とは違った顔を感じることがある。ヒヨドリの興味ある一面なのでこの冬、とくに給餌台を設置している方は注意して観察してほしい行動である。

### ヒトに急接近する鳥たち

東京の日比谷公園といえば日本を代表する都市型公園のひとつである。この公園では珍鳥を見ることはまずないが、都市鳥の生活ぶりの一端をかいま見ることができ、視点を変えとなかなかの探鳥地である。とくに最近スズメやカラスの人の距離がおもしろい。どちらも古くからヒトの近くで暮らしてきた種類で、とくにスズメはヒトに寄生して生きている鳥である。カラスも、とくに東京都心にいるハシブトガラスはヒトの出す生ゴミにその食物の多くを依存している。しかし人間社会に密着して生きているにも拘らず、彼らの今までの行動を見ていると、ヒトとある一定の距離を置いていることに気づく。スズメの巣はそのほとんどが人家に造っていながら、



ヒトの与えるご飯を食べるハシブトガラス  
日比谷公園で

その巣やヒナの姿を直接見ることはほとんどできない。カラスの巣も人の近づけない高い木の梢というのが通り相場であったし、普段も人を警戒してあまり近づかなかった。しかし日比谷公園を歩いていて、この2種が人と距離を急速に縮めていると実感する光景をしばしば目にする。

近年はカラスにまで餌を与える人ができて、2、30羽のカラスが餌をまいている人を取り囲んでいることがよくある。そのようすはドバトが足元まで寄ってきて餌をついばみ、その群の縁にスズメがたむろし、隙を見てはおこぼれをかすめとっている。そしてその周りをぐるりとカラスが取り囲み、パンやご飯を近くまで投げ与えられると、数羽が争うように取り合い、うまくとった個体は急いで群を離れていく。時にそれを数羽が後を追うこともある。そして食べ終わるとまた戻って来る。それはかつての不忍池のカモを思い出させる光景で、このままでいくと近い将来、日比谷公園の芝生がカラスで埋まる日が来るのではないかと思わず心配してしまう。

スズメの方も、人間が近づいて行って、どのくらいで逃げるかという「飛び立ち距離」を測ってみると確実に縮まっていて、最近では1mを切ることがしばしばある。

かつてロンドンの公園で手に止まらせて餌をやったことがある。ヨーロッパの市街地のスズメは日本の種類と種類が違うイエスズメで、日本では止まらないだろうという人もいるが、最近のスズメの様子を見ているともしかするとという感じがする。



手の上で餌を食べるイエスズメの若鳥  
ロンドンで

先に「スズメやカラスは古くからヒトと共に生きていたにも拘らず」と書いたが、それは逆で、人間社会と共に生きてきたからこそヒトを警戒してきたと考えられる。それが今、

市街地では崩壊しようとしている。ヒトとダイレクトに関係して生きている「都市鳥」は、やはり社会を浮き彫りにするひとつのバロメータになりえそうだ。



ヒトを見ると近づいてくるオナガガモ 不忍池で  
(かわち ひろし・都市鳥研究会事務局長)

## まいどおなじみ 事業部からのお知らせ



The Wild Bird  
Calendar-1991

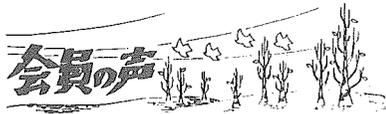
毎年、お部屋の中を野鳥の息吹で満たしてくれる野鳥の会のTHE WILD BIRD CALENDER ー今年もよろしくー  
定価 1,100円 会員価格990円(税込み)  
送料 600円(何部でも同じ)

10月から発売!!

例年12月になると品切れになります。おはやめにお求めください。



支部オリジナルワッペン 好評継続発売中  
定価 510円



探鳥会のコースさがし

林 滋 (美里町)

去年の秋、探鳥会のコースを見に秩父の山路を歩いていたら、土地の年寄りに冷やかされた。

おらが方じゃ、朝霧払って鳥なんざ見てゐるひま人はいねえよ。

けさがた裏のセンゼエ(干菜畑)にな、晩秋キュウリを取りに行ったらだいな、ヒッカタ(ジョウビタキ)が2匹も来てて、まあ、秋だいな。

そろそろ吊し柿をつくんねえちゅうと、妙見様(秩父夜祭)に間に合わねえよ。

それじゃあ、ごめんなすって。

乞うご期待!! 秩父方面探鳥会。

オランダ・スコットランド

角田真喜子(浦和市)

6月はじめ、蒲谷鶴彦先生同行のオランダ・スコットランドの探鳥ツアーに参加しました。

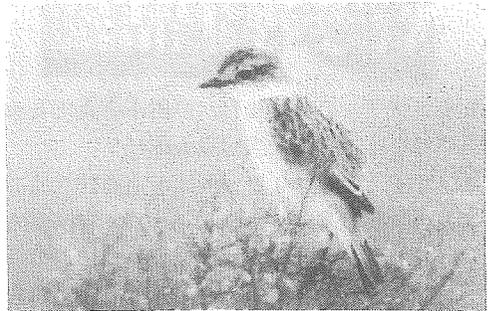
オランダのテクセルという島に三泊して、よく保護された干潟でソリハシセイタカシギ・ヘラサギ・黒い体に赤いクチバシのミヤコドリ・ツクシガモなどをたっぷり見たあとで、ムシクイ類の声が沢山聞かれる森の中に入りました。

ここには目の不自由なバードウォッチャーのために点字の掲示板や、一人でも安全に歩けるコースが作ってあるのに感心しました。

スコットランドでミサゴが巣づくりをしている保護区などを見たあとでシェットランドに飛び、さらに小さなゴムボートで渡った無人の島ノス島は、ニシツノメドリ・シロカツオドリ・オオトウゾクカモメ・フルマカモメが繁殖するすばらしい鳥の別天地でした。

シェットランドで私たちは思いがけず一羽のシロフクロウを見ることができました。

現地のガイドの話では、何年前までは3つがいくらいのシロフクロウがいたが、オスが続けて死んでしまい、今はこの1羽だけになったそうで、人間でいえば60才くらいのメ



ノビタキ(登坂久雄・八王子市)

スとのことでした。

ヒースにおおわれた小高い丘の上にじっと止まっていたシロフクロウの淋しそうな姿を忘れることができません。

このツアーは総勢32人で、平均年齢67才。最高90才の方もおられました。

おそく鳥を見はじめた私も、あと30年くらい鳥を見られるかしらと、大変うれしくなりました。

30年後にも日本でたくさんの鳥が見られるよう、ゴルフ場だらけの日本にならないよう、今、力を尽くさなければと思いました。

北秋津便り其三(8月16日)

水本玲子(所沢市)

残暑お見舞い申し上げます。

8月号の表紙を大変楽しく拝見しました。

暑い夏の日も庭のエサかごに野鳥たちがやって来ること、そしてヒマワリの種がシジュウカラやカワラヒワの大好物であること……野鳥を観察していると、色々なことがわかってきます。

そこで、このエサ用のヒマワリの種を家庭菜園にまいてみたら、高さ3メートルほどもあるヒマワリがたくさん咲きました。

台風で茎は倒れてしまいましたが、種はできていて、草速野鳥たちのエサになっています。

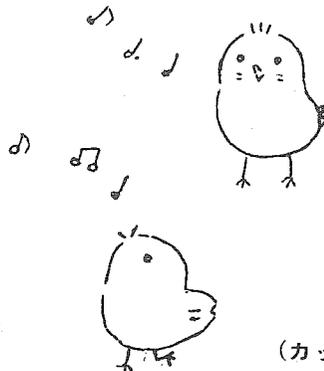


# 野鳥情報

- カイツブリ ◇7月15日、戸田市道満でヒナ3羽を確認する(浅沼源太郎)。
- ヨシゴイ ◇6月9日、戸田市道満貯水池で1羽(高橋達也)。◇7月8日、岩槻市大戸で1羽。アシ原より飛び立ち、アシの草丈より少し上をかすめるように飛び、向こう側へ消える(石川敏男)。◇7月16日、川口市差間で1羽(小谷野勝栄)。
- ササゴイ ◇5月26日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。◇6月6日、与野市の自宅上空を鳴きながら通過する(石井 智)。◇6月26日、戸田市の戸田橋付近の荒川河川敷で1羽(高橋達也)。
- アマサギ ◇5月26日、戸田市道満で夏羽3羽、冬羽2羽(駒崎政雄)。
- チュウサギ ◇7月15日、戸田市道満で2羽(浅沼源太郎)。
- アオサギ ◇7月8日、戸田市道満で3羽(小谷野勝栄)。
- カルガモ ◇6月23日、戸田市道満で親が4羽のヒナをつれて泳ぐ(駒崎政雄)。◇7月4日、熊谷市の西別府沼で親子15羽(神山和一郎)。
- コガモ ◇7月7日、所沢の松ヶ丘遊水池で♂1羽(佐藤方博、遠藤 薫、野中康治)。
- オナガガモ ◇7月22日、戸田市道満で♂1羽(登坂久雄)。
- カモSP ◇7月1日、坂戸市の高麗川で大中小合わせて12羽。いずれもマガモ♀タイプ。合鴨の可能性もあるが、色彩はどの個体も同じ(手塚正義、中村 治)。

- オオタカ ◇6月10日、吉見町南吉見の水田で成鳥1羽。ケリやカラスにモビングされながら飛び回った後、あぜ道に降りた(市川計彦)。◇6月17日、妻沼町の刀水橋上流で若鳥1羽が帆翔(市川計彦)。
- チョウゲンボウ ◇6月11日、妻沼町の刀水橋上流で♂1羽(市川計彦)。◇7月15日、戸田市道満で1羽(浅沼源太郎)。
- バン ◇6月17日、戸田市道満で7羽のヒナ連れの家族を見る。6月23日には同所で3家族見られた(駒崎政雄)。◇6月23日、浦和市大谷場の競馬場の池でヒナ6羽(古沢厚良)。
- オオバン ◇7月22日、戸田市道満で成鳥1羽、幼鳥3羽(登坂久雄)。
- イカルチドリ ◇7月29日、戸田市道満貯水池の干潟で2羽(高橋達也)。
- ムナグロ ◇7月25日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽(高橋達也)。
- ケリ ◇6月10日、吉見町南吉見の水田で2羽。飛びながらよく鳴いていた(市川計彦)。
- ヒバリシギ ◇7月21日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽(高橋達也)。
- トウネン ◇7月22日、戸田市道満で夏羽2羽(登坂久雄)。
- アオアシシギ ◇7月17日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽(高橋達也)。
- クサシギ ◇7月21日、戸田市道満貯水池の干潟で3羽(高橋達也)。
- タカブシギ ◇7月21日、戸田市道満貯水池の干潟で1羽(高橋達也)。
- キアシシギ ◇7月17日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。◇7月25日、戸田市道満貯水池の干潟で3羽(高橋達也)。

ひよこのうた



(カット・金子留美)

ツバメチドリ ◇7月17日、本庄市の阪東大橋下流で成鳥1羽だけ(井上幹男)。7月22日、戸田市道満で1羽。7月28日、同所で7羽(登坂久雄)。

カモメSP ◇6月28日、所沢市並木の所沢北高校上空で1羽。左羽が、2枚ほど抜けていて、飛び方もぎこちない。ユリカモメより一回りから二回りほど大きく、低空で飛んでいたのでおどろいた(遠藤 薫)。

アジサシ ◇6月23日、戸田市道満貯水池で1羽(高橋達也)。

コアジサシ(繁殖) ◇6月23日、戸田市道満貯水池のコンクリートの護岸の上に成鳥2羽とヒナ1羽。ヒナは親鳥がえさを運んでくるとき以外はじっと動かなかった。親は近くにダイサギが近づくと攻撃をしていた(高橋達也)。

カワセミ ◇7月8日、鴻巣市大間の荒川河川敷で、同じ場所に5羽以上。親鳥と巣立ったばかりの幼鳥と思われる。河岸の工事でしばらく姿が見られなかったが、どうやら無事に過ごしていたようで、ほっと一安心(榎本秀和)。◇7月14日午後3時、狭山市の入間川、広瀬橋上流にて。川の中のブロックに♂1羽がとまり2、3度ダイブした後、休憩していた。そこへもう1羽のカワセミが来てすぐ横に止まった。最初は♀が来たものと思ったが♂だったのでなわばり争いが始まるものとかたずをのんでながめていたが、両者とも知らん顔であった。しばらくして先にいたほうがぶいと飛び去り、少したってからもう1羽も飛び去った(三田長久)。

コゲラ ◇7月1日、戸田市の戸田公園で2羽。ここでは、初記録(高橋達也)。

コシアカツバメ ◇7月1日、坂戸市の高麗

川、天神橋そばの電線に2羽。幼鳥のようでした(岩沢房雄、増尾 隆)。

モズ ◇6月13日、富士見市の柳瀬川でオス親が、巣立ちヒナにえさを与えようとしたが子は受け取りに失敗。アシ原の中にえさを落としてしまった(中村 治)。

ヒヨドリ ◇6月30日、大宮市吉敷町で1羽の成鳥が、約5センチのカナヘビをくわえて電線へとまり、カワセミのように電線に打ちつけて、ぐったりさせてからくわえて飛び去る(何森 要)。

サンコウチョウ ◇6月12日、浦和市秋ヶ瀬C地区で♂♀各1羽(佐藤晶人)。

クロツグミ ◇7月14日午前10時、狭山市の智光山公園で♂1羽。木のてっぺんで、高らかに歌っていた(三田長久)。

キビタキ ◇7月18日、上福岡市上福岡で♂1羽(中村 治)。

エナガ ◇6月28日~29日、大宮市日進町1丁目1羽。ここでは初記録(森本國夫)。

シジュウカラ ◇7月7日、川越市今福の自宅で家族群を見る。子猫が近づくと、親がモビングした(市川計彦)。

コムクドリ ◇7月14日、戸田市道満の釣り堀横の林で♂♀幼鳥合わせて6羽(高橋達也)。

シベリアムクドリ ◇7月11日午後5時30分ごろ、秩父市上宮地町の電線にとまったりフライングキャッチをしている20羽以上の群れを発見。秩父愛鳥会の少年会員らが付近を移動する群れを追って7月13日の朝まで観察を続けたが、その後見つからない。写真もうつしたが、確認できる写真にはならなかった。声は、ムクドリやコムクドリとも明らかに違った(西田忠康・賢治、宮崎章次)。

表紙の写真

1989バードフォトコンテスト入選作

## ジョウビタキ(ヒタキ科ツグミ亜科)

10月のなかばをすぎると、県内各地からジョウビタキ初認の報告が聞こえてくる。

やわらかい陽光の中を、ヒラリと影が横切ると、やあ、今年もやって来たかと思わず声をかけたくなり、季節がまたひとつ、確実に

まわったことを知る。

(海老原美夫・浦和市)

次号からは、1990年度の入選作が表紙をかざります。お楽しみに。

# 行事あんない



## 北川辺町・渡良瀬遊水池探鳥会

期日：10月7日（日）  
集合：午前9時10分 東武日光線柳生駅前  
交通：東北本線大宮8：12発→栗橋8：41着、  
東武日光線乗換え8：55発→柳生9：05着  
解散：午後1時ごろ  
担当：中島康夫、石川敏男、松井昭吾、山部直喜、五十嵐浩

見どころ：猛禽類、続々登場。ミサゴにチュウヒ、チョウゲンボウ。もう、空から目が離せない。けれど、草むらのノビタキや遊水池のカモも見逃したくないし……さあ、困った！ どうしよう？ 渡良瀬ならではのゼイタクな悩みです。

## 愛知県・伊良湖岬探鳥会

期日：10月9日（火・夜行）～10日（水・祝）  
米定員に達しましたので、締め切りました。ご応募ありがとうございました。なお、参加される方には、案内書をお送り致します。

## 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月14日（日）  
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9：00発→大麻生9：10着／秩父鉄道寄居8：52発→大麻生9：10着  
解散：午後1時ごろ

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

担当：林滋、町田好一郎、逸見嶮、関口善孝  
田口浩司、岡安征也

見どころ：思いがけない出会いを求めて。時は10月、鳥たちの大移動の季節。すっかりおなじみの大麻生にも、意外な鳥が現われるかもしれません。ちなみに、去年の探鳥会には、ハチクマやツドリが登場。さて、今年は？ 胸ときめかせて、おいで下さい。

## 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：10月21日（日）  
集合：午前8時15分 北浦和駅東口または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、手塚正義、伊藤芳晴、笠原伸子

見どころ：まだまだ続く渡りの季節。山からカケスが降りてきました。さらに南へ長い旅を続けるエゾビタキ。日毎に増えてゆくカモの数。ゆく鳥、来る鳥、それぞれの表情を、秋たけなわの三室でウオッチング。

## 『しらこぼと』袋つめの会

とき：10月27日（土）午後1時～3時ごろ  
会場：支部事務局（浦和駅西口を出て左側、三菱信託銀行と日建ハウスの間）  
入って進み、信号ひとつ渡ってY字路の右、

茶色 5 階建マンション 1 階＝徒歩 5 分)  
案内：ちょっとお仕事した後は、鳥仲間とおしゃべりしながらティータイム。ひと味ちがった土曜の午後は、いかが？

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：10月27日（土）午後3時ごろ～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ  
案内：写真のビギナー大歓迎。ピンボケでもブレていても、いいんです。“カワセミがとまっていたはずの枝”の写真でも、かまいません。恥ずかしがらずに、作品を発表してみましょう。

### 川越市・西川越探鳥会

期日：10月28日（日）  
集合：午前9時 川越線西川越駅前  
交通：川越線大宮8：34発→川越で高麗川行き乗継ぎ8：56発→西川越8：59着  
解散：午後1時ごろ  
担当：乗田実、長谷部謙二、石井幸男、三田長久、佐久間博文、吉田喜代実。  
見どころ：水辺の鳥を楽しむ一日。何といっても、姿をじっくり眺められるのが、水鳥の魅力。のんびり浮かぶカモの群れ、白い体に真紅の嘴があざやかなユリカモメ、エレガントなサギの仲間たち——。見晴らしのよい河辺を歩きながら、心ゆくまでお楽しみ下さい。

### 上尾市・丸山公園 早朝探鳥会

期日：11月3日（土・祝）  
集合：午前7時20分 丸山公園北口駐車場  
交通：高崎線上尾駅西口1番バス乗り場から上尾車庫行き7：03発→終点下車  
解散：午前9時ごろ  
担当：乗田実、赤瀬征雄、松井昭吾、立岩恒久、河辺達朗  
見どころ：早朝の公園で、冬鳥をゆっくり。まだまだ眠っていたい休日の朝だけど、エイッと飛び起きて探鳥会へ。年中無休の小鳥たちの一生懸命な姿や、カワセミの輝くブルーを見たら、すっきり、パッチリ、目がさめます。

### 富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日（土・祝）  
集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前  
交通：武蔵野線南越谷8：15発→南浦和8：26→北朝霞8：36着、東武東上線乗換え、朝霞台8：48発→柳瀬川8：52着／東武東上線東松山8：07発→川越市で準急乗換え→柳瀬川8：49着  
解散：午後1時ごろ  
担当：藤原寛治、黒田佳子、杉本秀樹、長谷部謙二  
見どころ：おしゃれな冬の使者、タゲリが、マンション街のはずれの小さな別天地に、今年もやって来ます。黒と白の粋な装い、風になびく長い冠羽。ちょっと気取って田んぼを歩く姿を、ぜひ一度、見に来て下さい。

11月4日（日） 浦和市・秋ヶ瀬探鳥会  
同日 吉見町・吉見百穴探鳥会  
11月10日（土） 栃木県・奥日光探鳥会  
11月11日（日） 熊谷市・大麻生探鳥会  
同日 狭山市・入間川探鳥会  
11月18日（日） 浦和市・三室地区探鳥会  
11月23日（金・祝） 桶川市・川田谷探鳥会  
同日 長瀬町・長瀬探鳥会  
11月25日（日） 坂戸市・高麗川探鳥会



（カット・鈴木加代子）

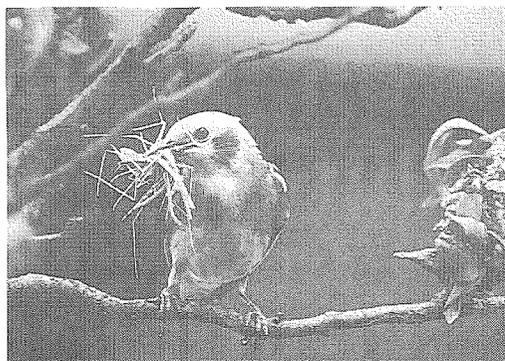
# 行事報告

6月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

**がんばってくれた人** 岩波勇一、海老原教子、河辺達朗、小荷田行男、鈴木秀男、登坂久雄、中村治、藤野富代、吉田二三子、渡辺孝章 (10人)

6月30日(土) 写真クラブ定例会

**集まった人** 23人 **作品発表した人** 6人



コムクドリ (海老原美夫・浦和市)

7月8日(日) 熊谷市 大麻生

**人** 40人 **天気** 曇 **鳥** カイツブリ ササゴイ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ オオタカ コジュケイ キジ バン イカルチドリ イソシギ コアジサシ キジバト カッコウ カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 明戸の堰へのコースを歩いた。ゴルフ場に沿った林では子連れのコジュケイ、荒川に出るとカイツブリ、セグロセキレイの若鳥など、堰では6月と比べて見違えるほど大きくなったバンの幼鳥と、至る所で新しい命が生まれていた。堰の上流側ではコアジサシがダイビングを繰り返すのも見られた。

7月15日(日) 浦和市 三室地区

**人** 39人 **天気** 曇一時雨 **鳥** コサギ カルガモ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ コムクドリ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (22種) 梅雨も終りの雨模様をのなかを歩いた。緑もしっとりとしていい感じ。先月に続いてカルガモ親子が見られ、コムクドリも登場。

7月28日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

**がんばってくれた人** 浅沼源太郎、岩波勇一、海老原教子、遠藤薫、河辺達朗、佐久間博文、登坂久雄、中村治、野中康治、藤野富代、吉田二三子 (11人)

7月28日(土) 写真クラブ定例会

**集まった人** 13人 **作品発表した人** 2人  
めずらしく作品が少なくて、今回はご紹介する写真ナンです。

8月12日(日) 熊谷市 大麻生

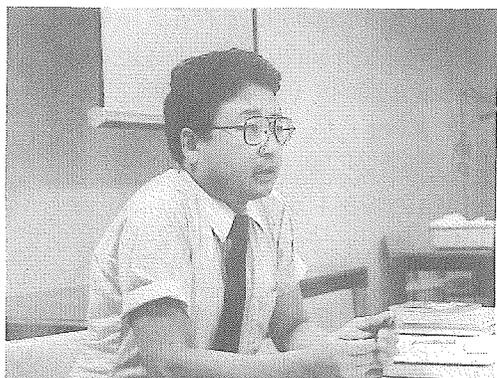
**人** 31人 **天気** 晴 **鳥** カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ トビ イカルチドリ クサシギ キアシシギ イソシギ キジバト ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 台風の雨で荒川が増水。バンの親子のことが気にはなったが、明戸の堰はあきらめて、野鳥の森の方にコースを取った。暑くて森の中に入るとヤブミョウガの群落が花を咲かせていた。荒川では渡りの途中のキアシシギなどが見られた。

### 8月12日(日) 識別勉強会「カモメの仲間」

講師 志村秀雄(写真下) 参加者 31人

もうカモメのことは任してくれ。冬が待ちどおしいと、参加者全員が言っております。

楽しく懇親会にもお付き合いくださった志村さんご夫妻、ありがとうございました。



### 8月26日(日) 千葉県習志野市 谷津千潟

人 埼玉県支部27人(全体で約100人)

天気 晴 鳥 カワウ ゴイサギ ダイサギ  
チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ  
オナガガモ トビ バン コチドリ シロチ  
ドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン  
キョウジョシギ トウネン ヨーロッパトウ  
ネン ハマシギ オバシギ ミユビシギ キ  
リアイ アオアシシギ キアシシギ イソシ  
ギ ソリハシシギ オオソリハシシギ ダイ  
シャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシ  
ギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ  
アジサシ コアジサシ キジバト ツバメ  
ハクセキレイ ヒヨドリ セッカ シジウ  
カラ スズメ オナガ(43種)



暑かったよ。アサリ汁はおいしかったよ。鳥もいたよ。でも、ムクドリとカラスがいなかったよ。ホント。

### 8月26日(日) 嵐山町 菅谷館跡

人 26人 天気 晴 鳥 ダイサギ コサギ

コジュケイ キジ イカルチドリ キジバト  
カワセミ コゲラ ツバメ キセキレイ ハ  
クセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モ  
ズ シジウカラ ホオジロ カワラヒワ  
スズメ ムクドリ ハシボンガラス ハシブ  
トガラス(21種)今年の夏は暑かった。そろ  
そろ秋の気配が感じられるはずなのに。蝉の  
声がするだけで全く鳥の声が聞こえない。河  
原に出ると多くのグループがバーベキューや  
川遊びをしていた。鳥はどこへ行ってしまっ  
たのだ。でも蝉時雨の中を飛び交うコゲラ。  
緑の田圃の上を舞う白鷺。バードウォッチャ  
ーだけが楽しめる夏のひとコマだ。最後に、  
オオムラサキ活動センターで休憩、鳥合わせ。  
オオムラサキについて活動センターの千島さ  
んから説明を受けた。有難うございました。

宮崎へお引越しだよー



(カット・押川歳子)

押川さんは、宮崎に転居されましたが、ファンの声に応じてカットを送ってくださっています。今後ともよろしくお願ひします。(編集部)



### 今年のバードソン 公式チームエントリー見送り

昨年のバードソンでの応援ありがとうございました。募金などの面ではもちろん、チーム4人の女性メンバーのうち3人が結婚にゴールインするなど、いろいろな面で(?)大きな成果を上げることができました。

11月3日に開催される今年のバードソンには、残念ながら埼玉県支部公式チーム参加の申込みがありませんでした。今年は、ほかのチームの応援をお願いします。

### カスミ網一般販売禁止 県議会に陳情書提出

9月7日(金)海老原事務局長が県議会事務局を訪ね、県会議長あて、鈴木忠雄支部長名の陳情書を提出しました。

「カスミ網の一般販売を禁止する意見書決議を採択することについて」の陳情書で、福井幹事の実施した県内の販売実態調査に基づいて、県内でもカスミ網が数多く販売されていることを指摘して、県内の自然環境への影響を憂慮し、国際問題にもなっているカスミ網による野鳥の密猟を根絶するため、地方自治法第99条2項の規定による意見書決議を求めらるるものです。

### 蓮田市民祭りで普及活動

8月25日(土)の蓮田市民祭りに参加、駅近くのテントで、写真パネル展示、バードウォッチンググッズの販売、カスミ網の署名運動など、夜9時ごろまで普及活動に汗を流しました。ご苦労さまでした。

〔ボランティア〕海老原教子、海老原美夫、草間和子、楠見文子、小林恒雄、手塚正義、福井恒人、中島康夫。

### 10月の土曜日当番(2時~6時)

- 10月6日 森本國夫 田口浩司
- 10月13日 山部直喜 海老原美夫(編集会議)
- 10月20日 岡安征也 渡辺 敦
- 10月27日 袋づめの会(1時から)

### ご寄付と支部賛助会費

朝長以久子1,500円、志村英雄10,000円、中島宏・永子30,500円、保坂達司10,000円、宮崎章次8,000円(支部賛助会費)。ありがとうございました。(50音順、敬称略)

### 会員数は

9月1日現在1,450人です。

### 活動報告

8月18~19日 都内で開催された本部理事懇談会に出席(海老原)。

8月19日 役員会議(司会:伊藤芳晴、10月から1月までの行事予定・巾着田に隣接するゴルフ場一仮称:西武日高ゴルフ場一反対運動への協力について・その他)

8月30日 写真家・平野伸明氏来所。展覧会で展示したチョウゲンボウの写真パネルから1枚を支部に寄贈。

9月5日 カスミ網販売禁止運動に関する記事が埼玉新聞に掲載された。



暑かった夏もようやく過ぎ去り、外はしとしと秋雨。でも、雨が降ろうと槍が降ろうと事務局には関係ありません。いつも通りの編集会議!

でも、役員でもない自分がどうして編集部員なんだろう? 確かアルコールの入った拍子に、Mさんにうまくノセられた記憶が……ヨシッ もう飲んだりしないぞ! と思いつつやっぱり今日も……(なかむら おさむ)

『しらこぼと』1990年10月号(第77号) 定価 100円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062  
 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130  
 印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)